

## ASNET 平戸実習実施活動報告書

医学部健康総合科学科4年 永井祐貴

2019年10月18日から10月20日の三日間、平戸にて実習を行いました。

参加したのは地理学を志す者から保健学、地理学を志す者など、様々なバックグラウンドを持つ学生たちで、“平戸で考える日本の未来”を主題として、様々な議論を交わすことを通して、お互いから学びあいました。日常的に必ずしもフィールドワークを生業としているわけではない学生たちは、胸をドキドキさせながら現地に向かい、徐々にフィールドワーカーとしての顔つきになっていき、調査終了時には少したくましくなったように見えました。

初日の10月18日の午前中に参加者は福岡空港に集合し、平戸へ向かい、平戸市到着後、フェリーで度島へ移動し、フィールドワークを展開した後、夜は度島にて現地住民の皆様と意見交換会をしました。学生たちは地方でどのような福祉体験が必要とされているのかなど、実際に高齢化社会で暮らす人々から意見を聞くことができました。

10月19日は個々の参加者の興味に応じてフィールドワークを実施し、現地の人々へのインタビューや暮らしぶりの視察などを行いました。午後には平戸本島へ移動し、第二のフィールドワーク地である紐差へと移動し、フィールドワークを展開しました。また夜には紐差の皆様との意見交換会をし、高齢化社会を迎える島ならではの視点を学生たちは学ぶことができました。

最終日の10月20日には、二日間のフィールドワークでの学びを軸として、市長を含む平戸市の地域の皆様への政策提言を行いました。“高齢者の日常生活サポート”、“結婚・出産・子育て・雇用機会創出”、“平戸生活のブランディング”、“特定健診受診率向上計画”、“生きがいとしての農業のあり方”など、学生個人個人の準備と現地での関心に基づいた政策提言を、市長を含む約100名の平戸関係者へ向けに行いました。その後、市長との意見交換を実施し、引率教員からのコメントをいただき、政策提言会は幕を閉じました。

またフィールドワークには多くの場合、予期せぬ副産物があります。今回もまた然りです。それは、平戸市の空き缶のポイ捨てを減らす標語のアイデアの依頼です。参加学生は突如の依頼に、最初は動揺するのですが、徐々にアイデア創出の技法を用いて言葉を捻出し、推敲を重ね、最終報告会にて発表し、会場の喝采を得ることができました。このような予定調和を超越した経験が個々のフィールドワークを彩る重要な出来事となること、このような予期せぬイベントに対処することが現地の人々の心をつかむこともあること、など少しでも感じ取ってくれたのなら、フィールドワーク入門編は修了したといっても過言ではないでしょう。

最後にフィールドワークを志す者へ、一言。

“May the Field be with you ~フィールドと共にあれ~”

